

暗号資産価値が急落

米利上げ影響 昨年から2兆ドル減

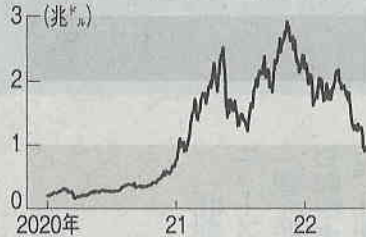
コロナ下で急騰した暗号資産(仮想通貨)の価値が急落している。米国の連続利上げでリスクを取るお金の価値が急減し、昨年のピークから市場全体の時価総額の約2兆ドル(約270兆円)分が吹き飛んだ。大手取引所などは人員削減に追い込まれ、仮想通貨の「冬の時代」が到来するとの見方も出ている。

「冬の時代」到来の声

米国で最大の仮想通貨交換所コインベースによると、ビットコインの価格は

仮想通貨市場の時価総額の推移

コインマーケットキャップのHPから



昨年11月の最高値から約7割下落し、26日時点で約2万1千ドル。米コインマーケットキャップによると、昨年11月に2・9兆ドル(約390兆円)あった仮想通貨の市場全体の時価総額は、26日時点で約9400億ドル(約127兆円)と約3分の1に落ち込んだ。コインベースは今月、約6千人の従業員の18%を削減する計画を公表した。ブ

ライアン・アームストロング最高経営責任者(CEO)は声明で「我々は10年以上の好景気を終え、不況に入っているように見える。不況は仮想通貨の冬につながる。長期間続く可能性がある」と指摘。仮想通貨の貸し出しを手がける米ブロックファイも今月、従業員を約2割削減する方針を公表した。

仮想通貨は、コロナ下の金融緩和などを背景に、この2年ほどで価格が急騰。関連企業にはベンチャーキャピタルなど投資家から巨額のお金が流れ込み、米大リーグ(MLB)エンゼルスの大谷翔平選手らスポーツ選手や有名人を使った広告も展開していた。だが、米国で大幅な利上げが進み、大手IT企業な

どを中心に株価が急落。仮想通貨から資金が急速に流出した。仮想通貨は以前から高い投機性への懸念が指摘されていたほか、一部の業者が出金停止に追い込まれるなど混乱もあった。

法定通貨と連動し、価格が安定しているとされてきた「ステーブルコイン」でも異変が起きた。韓国の起業家ド・クオン氏が立ち上げた「テラUSD」の価格が5月に急落。1テラ1ドルで固定されていたはずの価格は26日時点で1割ほどに落ちた。米メディアによると、テラは現金などの資産による裏付けがなく、同社が発行する別の仮想通貨「ルナ」とコンピュータープログラムで連動させていると説明していた。

国際決済銀行(BIS)は21日に公表した報告書で、1万超あるとされる仮想通貨について、「構造的な欠陥がある」と指摘。「金融リスクを生む規制されていない仲介業者に頼っている」と警告した。(サンフランシスコ五十嵐大介)